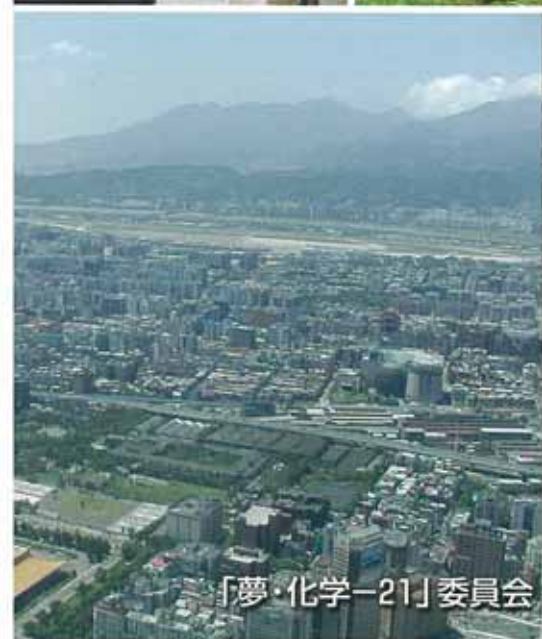




Challenge to “International Chemistry Olympiad” —国際化学オリンピック—



37年の歴史を刻む世界大会 国際化学オリンピック

Intern



開会式



代表紹介(開会式)



実験試験



筆記試験

● 科学のオリンピックとは？

スポーツにオリンピックがあるように、高校科学の世界には、世界の生徒たちが集まって実力を競うオリンピックがあります。それが「科学オリンピック」。

数学オリンピックのことを知っている人は多いでしょうが、そのほか5つもあることを知っていましたか？

6つの科学オリンピックを歴史の古いものから並べると、こうなります。

国際数学オリンピック(1959年開始。2005年度91カ国が参加)

国際物理オリンピック(1967年開始。同72カ国)

国際化学オリンピック(1968年開始。同59カ国)

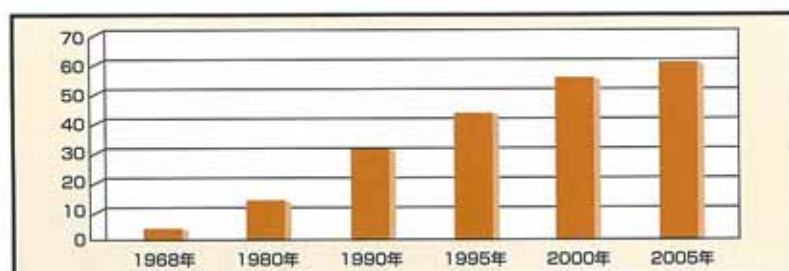
国際情報科学オリンピック(1989年開始。同72カ国)

国際生物オリンピック(1990年開始。同50カ国)

国際天文オリンピック(1996年開始。同15カ国)

それぞれの科学オリンピックは(スポーツとはちがって)毎年、世界のどこかで開かれます。日本は、数学に第31回大会(1990年)から、化学には第35回大会(2003年、アテネ)から、生物は第16回大会(2005年)から参加しました。

今年は「物理」と「情報科学」も参加の予定です。



国際化学オリンピック参加国数の推移

● 化学オリンピックの歴史は？

1968年にチェコスロバキア・ハンガリー・ポーランドの3国が、高校生の学力コンクールを開きました。それがやがてヨーロッパから世界に広がり、国際化学オリンピック(略称IChO)と呼ばれるようになって、いまや60カ国が参加する国際イベントです。第37回大会(2005年)は台湾の台北市で開催されました。

アジアの国々も、1987年の中国、88年のシンガポールを皮切りに、90年代に入るとタイ、台湾、韓国、イラン、ベトナム、インドネシア、インド・・・が続々と参加しました。1995年には中国、99年にはタイ、01年にはインド、05年には台湾が、それぞれ主催国をつとめてもいます。

International Chemistry Olympiad

● いつ、どんなふうに行われるの？

開催期間は例年、7月の10日間。各国から参加するのは、4名以内の高校生代表と、2～3名の先生です。生徒たちは、5時間の実験試験（4日目）と、5時間の筆記試験（6日目）に挑みますが、ほかの日は自由時間も多く、開催国が用意した見学会やスポーツ大会などで、世界中から来た仲間と交流を深めることができます。

オリックススケジュール(05年度実績:台湾・台北大会)

7月15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
壮行会	成田空港出発 台湾到着	開会式	エキスカージョン	実験問題	エキスカージョン	筆記問題	エキスカージョン	エキスカージョン	閉会式	清華大学訪問	帰国 文部科学省・ 経済産業省へ表敬訪問

※空き日は国際交流のためのエキスカージョンが行われる

生徒たちが楽しんでいる間、付き添いの先生がたは、問題の検討会、問題文の翻訳、採点とその調整などに汗を流します。そうやってきまった最終成績をもとに、最終日の前日の夕方に行われる表彰式で、優秀者には金メダル（全体の約1割）、銀メダル（2割）、銅メダル（3割）を手にするのです。第37回大会での日本代表の成績は、銀メダル1名、銅メダル3名と全員がメダルを手に入れました。

● どんな問題が出るの？

さすがにオリンピックですから、ふだんの期末テストや大学入試のレベルではありません。基礎力とじっくり考える力が要求されます。でも裏を返すと、どんな学科の勉強にも必要な「考える力」さえ身につけていれば、やはりスポーツのオリンピックと同じく、世界の強豪を打ち負かすこともできるのです。

化学は「ものづくり」の学問ですから、ものづくりの「基礎体力」と「応用力」を競うわけですね。

実際にどんな問題が出るか興味を持った人はホームページで過去の問題をチェックしてみてください。

< <http://icho.csj.jp/> >



エキスカージョン（遠足・見学）



エキスカージョン（遠足・見学）



国際交流



閉会式

オリンピックへの道

—— 国内予選とトレーニング、そして ——

オリンピック代表は「全国高校化学グランプリ」（詳細は7ページを参照）の参加者考書で勉強していただきます。代表候補にはそれぞれ先生がつき指導します。春休みは7月のオリンピックに向け5月に実験トレーニングを行います。

2006年

7月下旬

一次選考（筆記試験）



8月下旬

二次選考（実験試験）



11月

代表候補認定式



全国高校化学グランプリは全国28会場（予定）で一次選考を行い、二次選考は東京工業大学大岡山キャンパスで行われます。グランプリで挑戦する問題もオリンピック級なので、参加すれば「世界」をのぞき見ることはできるはずです。

8月末に代表候補を決定しますが、11月には東京で代表候補の認定式を行います。

7月

メダル獲得



オリンピック開催



壮行会



文部科学大臣表敬訪問



閉会式



台湾到着



national Chemistry Olympiad

う選ばれます。一次選考の成績優秀者8名程度が代表候補に選抜され、配布された参
行われる合宿で最終選考をし、4名の代表が決定します。そして選ばれた4名の代表

2007年 →

3月下旬～4月上旬

参考書



準備問題



開催国が作成する問題。代表
候補は翻訳された問題を解く
ことでさらに実力を伸ばします。

最終選考合宿・代表決定



代表候補には春休みに東京で合宿が
行われ、出題範囲の難関部分のレクチャーを行います。その後、最終選考を
行い代表が決定します。

4月下旬～5月上旬

実験トレーニング



4名の代表にはオリンピック本番に
向け、実験を主としたトレーニング
が行われます。



全国高校化学グランプリ 2006 参加者募集

「化学」に自信のある高校生諸君は奮って参加して下さい。「全国高校化学グランプリ」は文部科学省「学びんピック」認定の高校生の化学・学力コンテストです。夏の高校なぞらえ、「化学の甲子園」とも呼ばれています。

なお、1・2年生の優秀者から4名を選抜し、第39回国際化学オリンピック（ロシアワ(予定)、2007年7月）に派遣します。

■ 応募資格

高校生または高校と同等の学校（高専の場合は高校相当の学年）の生徒で、20歳未満の者。

■ 選考手順

1.〔一次選考：筆記試験〕

7月17日(月)13時～16時に全国30会場にて実施予定

①札幌会場(北海道大学) ②旭川会場(北海道教育大旭川校) ③北見会場(北見工業大学) ④青森会場(弘前大学) ⑤秋田会場(秋田大学) ⑥岩手会場(岩手大学) ⑦仙台会場(東北大学) ⑧山形会場(山形大学) ⑨福島会場(安積高校) ⑩東京会場(日本化学会) ⑪松本会場(信州大学) ⑫名古屋会場(名古屋大学) ⑬岐阜会場(岐阜大学) ⑭富山会場(高岡高校) ⑮金沢会場(金沢大学) ⑯大阪会場(大阪大学) ⑰岡山会場(岡山大学) ⑱広島会場(広島大学) ⑲徳島会場(徳島大学) ⑳松山会場(愛媛大学) ㉑福岡第一会場(福岡教育大学) ㉒福岡第二会場(久留米高専) ㉓佐賀会場(佐賀大学) ㉔長崎会場(長崎大学) ㉕大分会場(大分大学) ㉖熊本会場(熊本大学) ㉗宮崎第一会場(宮崎大学) ㉘宮崎第二会場(延岡西高会館) ㉙鹿児島会場(鹿児島大学) ㉚沖縄会場(琉球大学)

2.〔二次選考：実験試験〕

8月19日(土)に東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)にて実施。二次選考に参加する約60名です。二次選考参加者のうち遠方の方には本会規定による旅費を支給します。ただし、移動、宿泊は参加者本人の責任で行ってください。

■ オリンピック代表選抜

「全国高校化学グランプリ2006」二次選考に参加した生徒の中から、国際化学オリンピックの参加者となる高校1・2年生の成績優秀者8名程度を選考します。そして、学習・実験支援のうえ4名を選抜し、国際化学オリンピックへ派遣します。国際化学オリンピックについては、ホームページ <http://icho.csj.jp/> をご覧ください。

■ 表彰

優秀賞(賞状と副賞パソコン)、金賞・銀賞・銅賞(賞状と副賞図書カード)、国際化学オリンピック肯定(賞状と副賞参考書)を予定しています。

■ 参加費：無料

■ 参加申込締切：6月30日(金) ※FAXでの申し込みは6月23日(金)まで

■ 応募方法

下記ホームページのエントリーフォーム、またはFAX用紙をダウンロードして申し込んで下さい。

■ 問合せ・申込先

日本化学会化学教育協議会「全国高校化学グランプリ」事務局
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5

第42回 国際化学オリンピック(ICHO) 2010年夏に日本で開催の予定!

かねてより懸案の2010年日本開催は、2005年12月開催のICHO運営委員会(韓国)で仮承認されました。2006年7月、韓国大会の会期中に開かれる運営委員会で正式承認の運びとなる見込みです。

今後は以下のようなスケジュールで、開催に向けた準備にとりかかることとなります。政府後援のもと、化学に関係する産業界や学会・協会の総力をあげて成功させたいと願っています。



2006年7月頃



- 国際化学オリンピック日本委員会(仮称)の発足
- 組織委員会(委員長には野依良治先生を予定)の発足
- 実行委員会(委員長には東京大学・渡辺正教授を予定)など、各種委員会・小委員会の発足

2009年夏



- 日本代表候補を高校化学グランプリ2009で選抜(対象は2006年時点の中学1・2年生)

2010年春



- 第42回ICHO開催

2010年7月

- 参加する高校生は、60カ国以上から250名程度と予想されます。
- ・実験試験会場:早稲田大学理工学部(予定)
- ・筆記試験会場:東京大学教養学部(予定)





このパンフレットは
独立行政法人 科学技術振興機構
「国際科学技術コンテスト支援事業」
の助成を受けて作成したものです。

060315000SAN

国際化学オリンピック
URL:<http://icho.csj.jp/>

高校化学グランプリ
URL:<http://gp.csj.jp/>

「夢・化学-21」委員会 事務局
〒104-0033 東京都中央区新川1-4-1 (社) 日本化学工業協会内
TEL03-3297-2555
URL:<http://www.kagaku21.net/>

日本化学会化学教育協議会
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL03-3292-6164
URL:<http://edu.csj.jp/>

